

## 25年12月分 製材工場の荷動き・価格先行き動向調査 1

1. 調査実施期間 平成25年 11月20日～ 12月10日

## 2. 調査実施方法

全国の国産材製材工場に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。  
12月分の回答企業数は18社である。

## 3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)=[「増加」の評価を行った回答の割合]×2+[「やや増加」の評価を行った回答の割合]-[「減少」の評価を行った回答の割合]×2-[「やや減少」の評価を行った回答の割合]÷2  
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

## 4. 調査結果の概要

## ア. 国産材

## (1) 製材用原木荷動き動向 Weight. D. I.

品目	25/12月	26/1月	2月	
入荷動向	スギ	12.5	12.5	8.3
	ヒノキ	16.7	11.1	5.6
	カラマツ	△ 50.0	△ 50.0	△ 50.0
	トドマツ	△ 50.0	△ 50.0	△ 50.0
消費動向	スギ	29.2	25.0	20.8
	ヒノキ	27.8	33.3	27.8
	カラマツ	100.0	100.0	100.0
	トドマツ	25.0	25.0	25.0
在庫動向	スギ	△ 22.7	△ 18.2	△ 13.6
	ヒノキ	△ 27.8	△ 33.3	△ 33.3
	カラマツ	△ 100.0	△ 100.0	△ 100.0
	トドマツ	△ 25.0	△ 50.0	△ 25.0

原木入荷はスギ、ヒノキとも増加傾向で推移、カラマツ、トドマツともに減少基調で推移。消費は、全ての樹種で増加傾向で推移。在庫は全ての樹種で減少傾向で推移。

## (2) 製材原木価格動向 Weight. D. I.

品目	25/12月	26/1月	2月
スギ	66.7	29.2	20.8
ヒノキ	72.2	50.0	22.2
カラマツ	100.0	100.0	100.0
トドマツ	75.0	75.0	75.0

原木価格は、全ての樹種で強含みないし強保合で推移。

## モニターからのコメント

(原木荷動き)・入荷は暴騰と言ってよい状態、消費は駆け込み旺盛。・当社ではスギ順調に入荷、他製材所では市場への丸太出品量少なく競争になり単価上がっている様子。先月同様県外出荷分が年明けまであり消費は順調。入荷も順調で在庫も毎月と同様。・入荷はヒノキ、スギ共に増える、消費は出材増える生産も増える、在庫なし。・入荷事情依然として改善しない、今後降雪による出材減少が心配。消費は丸太入荷待ちの状態が続いている、市場在庫が極端に少ない。・入荷は、先月同様原木入荷は改善されてない。12月から冬期集材期になり製材工場・合板工場共に在庫が極端に少ないことから集荷量・価格についても厳しい状況が予想される。入荷量＝使用量で在庫が増える状況にない。・ヒノキ丸太は10、11月と連続して多量に出材され、価格も11月中旬以降一段と高くなった。需要が増えたことが原因かも。いつも通り1時間の残業。1、2月は市場の丸太減少により在庫はやや少なくなる。・天候不順で道路悪く、運材業者不足でトドマツ丸太は山土場から運材できない。入荷不足で消費量を抑える。在庫は1カ月を切り長さのバランスも悪い。・ヒノキ丸太は単価上昇のため増加傾向、しかしまだ不足気味。増産したいが素材が追いつかない。入荷は増加しているが挽き上げも増加しているので在庫は横ばい。・スギ丸太入荷はやや頭打ち。KDのため乾燥キャパ以上の製材出荷は困難。・スギ、ヒノキ丸太は相場上昇も出材さほど増えず。仕入れ増えないため消費量は横ばいが精一杯。低水準の在庫継続。・スギ、ヒノキについて製材所の仕入れ意欲非常に強く、丸太の出材は例年より多いが常に不足状態。注文多いが乾燥能力の範囲内でフル生産の状態。在庫は増える間がないが多少増えている。・スギ、ヒノキ丸太は各原木市場に原木入荷少なく価格上昇。工場はフル稼働だが不足している丸太が多く苦勞。

(原木価格) ・先月同様スギ中丸太は16,000円/m<sup>3</sup>、柱用丸太も値上がりしているが出材量は増えていない。・丸太は全て高い。・ヒノキは多少落ち着いたが、スギは高騰している。・カラマツ・トドマツ共に11月より仕入れ価格を改訂します。・ヒノキ丸太は高いところで横ばい、価格は天が見えたのではないか。・トドマツは全道的に不足、但し過度の丸太価格上昇は将来に向けて国産材安定普及にマイナス。・ヒノキ丸太は無い高。・地域性もあるがスギに関してはそこまでの下落は無いと予想。・スギ、ヒノキ丸太の当月の値上がりは大きい次月以降の値上がりはあまりないと思うが…。・スギ、ヒノキは原木相場の上昇に製品の値上がりが追いつかない。・特にヒノキ原木が上昇、対策がない。

## 25年12月分 製材工場の荷動き・価格先行き動向調査 2

## (3) 製材品荷動き動向 Weight. D. I.

品目		25/12月	26/1月	2月
生産動向	スギ	29.2	33.3	25.0
	ヒノキ	38.9	38.9	38.9
	カラマツ	100.0	100.0	100.0
	トドマツ	50.0	50.0	50.0
出荷動向	スギ	33.3	25.0	20.8
	ヒノキ	16.7	16.7	16.7
	カラマツ	100.0	100.0	100.0
	トドマツ	25.0	25.0	25.0
在庫動向	スギ	△ 31.8	△ 40.9	△ 31.8
	ヒノキ	△ 55.6	△ 50.0	△ 44.4
	カラマツ	△ 50.0	△ 50.0	△ 50.0
	トドマツ	△ 25.0	△ 25.0	△ 25.0

生産動向は全ての樹種で増加傾向で推移。  
出荷動向も全ての樹種で増加傾向で推移。  
在庫動向は全ての樹種で減少基調で推移。

## (4) 製材品出荷価格動向 Weight. D. I.

品目		25/12月	26/1月	2月
スギ	柱角 KD10.5×3	66.7	37.5	16.7
	柱角 KD12×3	62.5	33.3	12.5
	通し柱 12×6	55.6	33.3	27.8
	桁角	55.0	45.0	25.0
	母屋角	60.0	45.0	30.0
	タルキ	50.0	44.4	27.8
	間柱	62.5	41.7	25.0
	ヌキ	40.0	25.0	15.0
	平割	50.0	40.0	25.0
	ラミナ	70.0	60.0	50.0
ヒノキ	柱角 KD10.5×3	85.0	50.0	45.0
	柱角 KD12×3	85.0	50.0	40.0
	土台角 10.5×4	90.0	55.0	45.0
	土台角 12×4	90.0	55.0	45.0
	通し柱 12×6	70.0	60.0	50.0
	ラミナ	70.0	40.0	40.0
カラマツ土台角10.5×4	—	—	—	
〃 梱包仕組み板	100.0	100.0	100.0	
〃 ラミナ	100.0	100.0	100.0	
トドマツサンギ	50.0	50.0	0.0	

スギ及びヒノキ製材品は総じて強含みないし強保合で推移。  
カラマツ製材品も強含みで推移。  
トドマツサンギは12、1月の強含みないし強保合が2月には横ばいに。

## モニターからのコメント

## (製材品荷動き)

・出荷は全品目に動き活発。・秋田県内ではKD材の注文増えているが、対応できずAD又はグリーン材で対応している。県内の注文それなりに入っており、関東、北陸からの注文もあるので出荷は順調。急な注文にも対応するため残業して在庫増やしている。・生産増加、出荷は順調もオーダー多すぎ、在庫なし。・生産は丸太入荷に比例して減少気味、冬期のため製材速度遅くなり生産が落ちそう。出荷は丸太入荷減少に比例して出荷も減少する見通し、在庫は生産減少に伴い減少気味。・1月は稼働日数少ないためヒノキ製材品の生産は減少。生産できた分だけ出荷。生産と出荷のバランスが合わないため在庫はやや減少。・トドマツ製材の生産・出荷は注文旺盛もこれ以上受注できない。生産即出荷続きほぼ在庫はゼロ。・ヒノキ製材品は生産は受注多いが受けきれない。出荷も順調。AB材とも出荷多く在庫減。・スギ製材品は在庫確保のため若干残業。来年に入ると落ち着くのではないかと。・注分量は増加しているが、生産量を増やせない。・スギ、ヒノキ製材品は生産・出荷量増えず、横ばい、原木量次第。低水準の在庫量のまま推移。・スギ、ヒノキ製材品は能力一杯の生産。来月から乾燥機増設によりKD生産

(製材品出荷価格動向) ・スギ・ヒノキ共オーダー多すぎ対応できない。・スギは値上げ可能な製品はすんなり受け入れてもらえるがハウスメーカー向け製品価格は上げてもらえない、ヒノキはヒノキ製品が少ないため値は通りやすい、しかしラミナは横ばいで逆ザヤ状態。・カラマツ製品価格は梱包材・ラミナ共に12月より価格改定実施します。ヒノキ製材品は11～12月にかけて価格上昇。KD土台4×105角はAB込み工場渡しで80,000円/m<sup>3</sup>。・トドマツサンギは丸太値上がり分製品も値上げはOKも受注に対し生産追いつかず。・スギ製材品価格は来年度のWWの動向により変化するのではないか。・スギ母屋角の丸太原木が流通していない。・スギ、ヒノキ製材品は原木の値上がりに製品価格追いつかず、段階的な値上げを継続。・スギ製材品は全ての品目で上昇、ただこの辺りが天井か？。ヒノキ製材品は無いもの高だが、丸太相場には追いつかず既契約分は逆ざやが拡大している。・スギ母屋角KD材が特に不足している。ヒノキ材市場価

## 25年12月分 製材工場の荷動き・価格先行き動向調査 3

イ. 外材

## (1) 製材用原木の荷動き動向 Weight. D. I.

品目		25/12月	26/1月	2月
仕入動向	米マツ丸太	0.0	△ 50.0	0.0
	NZラジアータ	50.0	50.0	50.0
	北洋エゾマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ原板	—	—	—
消費動向	米マツ丸太	0.0	△ 50.0	0.0
	NZラジアータ	50.0	50.0	50.0
	北洋エゾマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ原板	—	—	—
在庫動向	米マツ丸太	0.0	0.0	0.0
	NZラジアータ	0.0	0.0	△ 50.0
	北洋エゾマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ原板	—	—	—

原木の仕入れは米マツ丸太が12月の横ばいから1月の減少を経て2月には横ばいに、NZ材は増加基調で推移。  
消費は、米マツ丸太が12月の横ばいから1月の減少を経て2月には横ばいに、NZ材は、増加基調で推移。  
在庫は、米マツは横ばい、NZ材は12、1月の横ばいが2月には減少に。

## (2) 製材用原木等購入価格動向 Weight. D. I.

品目	25/12月	26/1月	2月
米マツ丸太	50.0	50.0	0.0
NZラジアータ丸太	—	0.0	50.0
北洋エゾマツ丸太	50.0	—	—
北洋アカマツ丸太	—	—	—
北洋アカマツ原板	—	—	—

米マツ丸太価格は、12、1月の強含みないし強保合が2月には横ばいに、NZ材は1月の横ばいから2月の強含みないし強保合に。

## モニターからのコメント

(原木荷動)

- ・ラジアータ丸太の消費は、年末になり注文量微増、木製物流パレット注文増。

(原木価格動向)

- ・12月NZ積み原木は2.5%値上がり。

25年12月分

## 製材工場の荷動き・価格先行き動向調査 4

## (3) 製材品の荷動き動向 Weight. D. I.

品目	25/12月	26/1月	2月
生産 米マツ製材品	0.0	△ 100.0	0.0
動向 NZラジアータ製材品	100.0	100.0	100.0
北洋エゾマツ製材品	—	—	—
北洋アカマツ製材品	—	—	—
出荷 米マツ製材品	0.0	△ 100.0	0.0
動向 NZラジアータ製材品	100.0	100.0	100.0
北洋エゾマツ製材品	—	—	—
北洋アカマツ製材品	—	—	—
在庫 米マツ製材品	△ 100.0	0.0	0.0
動向 NZラジアータ製材品	△ 50.0	△ 50.0	△ 50.0
北洋エゾマツ製材品	—	—	—
北洋アカマツ製材品	—	—	—

生産は米マツ製材品が12月の横ばいから1月の減少を経て2月には横ばいに。NZ材製材品は増加基調で推移。出荷は米マツ製材品が12月の横ばいから1月の減少を経て2月には横ばいに。NZ材製材品は増加基調で推移。在庫は米マツ製材品が12月の減少から1,2月には横ばいに。北洋エゾマツ製材品は減少基調で推移。

## (4) 製材品の出荷価格動向 Weight. D. I.

品目	25/12月	26/1月	2月
米マツ平角	—	—	—
米マツ正角	—	—	—
米マツ小割	—	—	—
北洋エゾマツタルキ	—	—	—
北洋アカマツタルキ	—	—	—
NZ梱包材(割板)	50.0	50.0	100.0
NZ梱包材(割角)	50.0	50.0	100.0
NZ土木用材	50.0	100.0	100.0
その他	—	—	—

NZ材製材品価格は強含みないし強保合で推移。

## モニターからのコメント

(製材品荷動き)

- ・ 毎月1～2時間残業中。

(製材品出荷価格動向)

- ・ 値上げ中。